

2025年3月28日

報道関係各位

GMO インターネットグループ

GMO インターネットグループ、生成 AI の業務活用率が 90%を突破！ 活用者の半数以上が「ほぼ毎日」利用

“すべての人にインターネット”をコーポレートキャッチに、インターネットインフラ、インターネットセキュリティ、インターネット広告、インターネット金融、暗号資産事業を展開する GMO インターネットグループ（グループ代表：熊谷 正寿）は、「AI で未来を創る No.1 企業グループへ」を掲げ、グループをあげた生成 AI の活用・業務効率化の取り組みを進め、四半期に一度、生成 AI の活用に関する定点調査を実施しています。（参考 2024 年の年間調査結果：<https://www.gmo.jp/news/article/9330/>）

2025 年 3 月に実施した調査の結果、グループ全体の**生成 AI 業務活用率は 90.0%**に到達し、**AI を活用しているパートナー（従業員）の過半数が「ほぼ毎日」活用している**ことがわかりました。また、**月間の削減時間は約 17.7 万時間**に到達、**1 人あたり^(※1) 月間で約 32.2 時間を削減**できていることとなります。^(※2)

²⁾ 生成 AI 活用率が 9 割を超えた現在も、AI 活用による効率化の勢いはそのままに、グループ内の AI 活用が引き続き活性化している実態が見えてきました。^(※3)

生成AI業務活用率 90%を突破！ 活用者の半数以上が 「ほぼ毎日」利用

GMO
INTERNET GROUP

■ 調査サマリ

- 2025 年 3 月時点で全体の**生成 AI 業務活用率は 90.0%**（前回調査差+1.4 ポイント）
- 生成 AI を業務に活用しているパートナーのうち**54.6%**が「ほぼ毎日活用」
- グループ全体の**月間の削減時間は推定 17.7 万時間**に（前回調査差+約 1.6 万時間）
- 1 人あたりの**月間の削減時間は約 32.2 時間**に（前回調査差+約 2.1 時間）
- 社内リスキリングスクール「虎の穴」に興味を持っているパートナーは**62.4%**。既に業務活用している人も現状に満足することなく、さらに高度な活用を目指している
- 直近の大きな AI トрендである「Deep Research（詳細な調査機能）」についても、**既に多くのパートナーが業務に取り入れ、効率化だけでなく新たな価値創造を推進している**

■ 調査概要

- ・ 調査テーマ : 「生成 AI 活用」実態調査
- ・ 回答者数 : 6,422 人 (有効回答 5,276 人)
- ・ 調査対象 : GMO インターネットグループの国内パートナー
(正社員、契約社員、アルバイト、派遣社員、業務委託)
- ・ 調査期間 : 2025 年 3 月 10 日 (月) ~ 3 月 14 日 (金) 調査テーマ: 「生成 AI 活用」実態調査

(※1) 国内全パートナーの 85.6%にあたる 5,497 人が生成 AI を活用していると仮定し算出。

(※2) 業務活用をしているパートナーの 1 人あたりの削減時間。

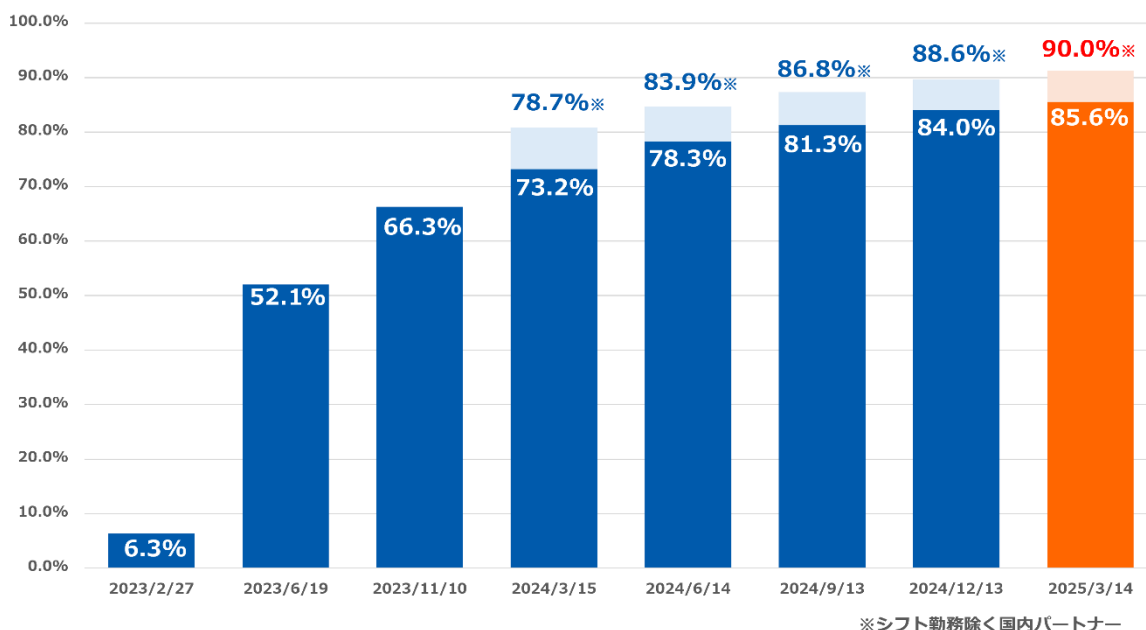
- (※3) 2023 年 11 月 20 日 定点調査 <https://www.gmo.jp/news/article/8680/>
2024 年 04 月 09 日 定点調査 <https://www.gmo.jp/news/article/8922/>
2024 年 07 月 05 日 定点調査 <https://www.gmo.jp/news/article/9051/>
2024 年 10 月 09 日 定点調査 <https://www.gmo.jp/news/article/9185/>
2025 年 01 月 07 日 定点調査 <https://www.gmo.jp/news/article/9330/>

【GMO インターネットグループの生成 AI 活用調査結果】

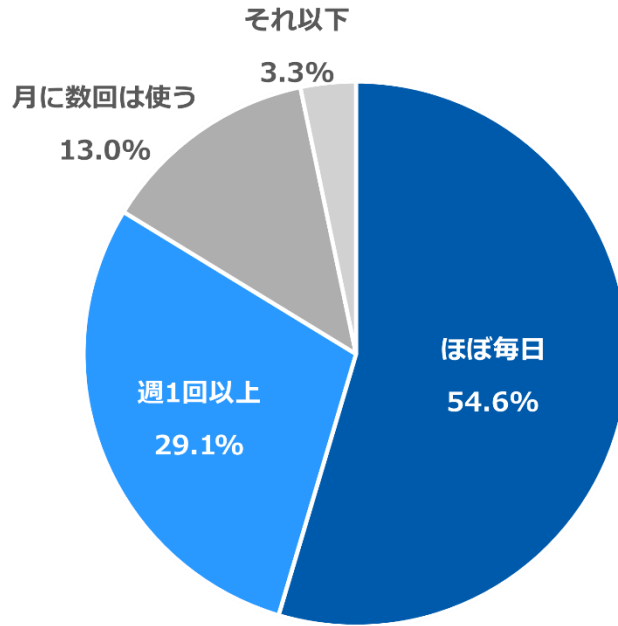
① 生成 AI 業務活用率が 90%を突破、うち半数以上が「ほぼ毎日」活用

- ・ 国内パートナー (シフト勤務除く) の 90.0%が生成 AI を活用 (前回調査差+1.4 ポイント)。
- ・ 業務に生成 AI を活用しているパートナーのうち **54.6%が「ほぼ毎日」、83.7%が「週 1 回以上」活用**していることがわかりました。
- ・ 生成 AI の活用で、ひと月あたり約 **17.7 万時間** (前回調査差+約 1.6 万時間) の削減、**1 人あたり約 32.2 時間** (前回調査差+約 2.1 時間) の削減を実現しました。
- ・ 一方で、今回よりアンケートの回答結果から「利用頻度」「利用ツール数」「削減時間」「リテラシー」といった複数の観点で、業務活用しているパートナーを 3 段階の活用レベルに分類したところ、**高レベルに分類されたパートナーは全体の 28.8%にとどまる結果**となりました。
- ・ 今後は、**単に業務活用をしている否かだけでなく、高度なレベルで使いこなせているか**、という点にも着目し、さらなる AI 活用推進を進めてまいります。

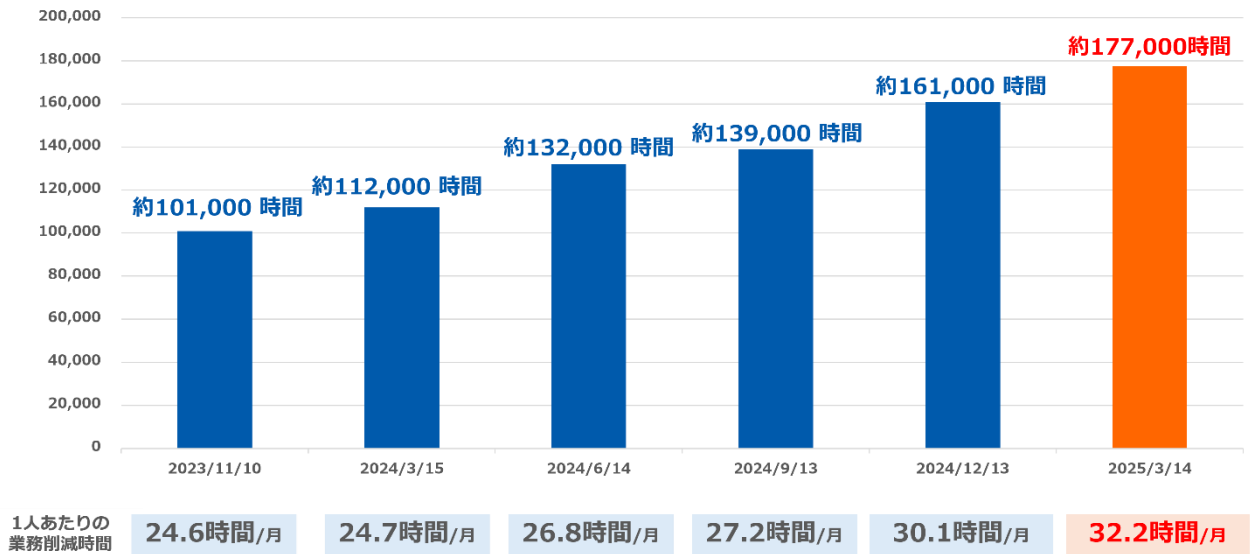
生成AI業務活用率



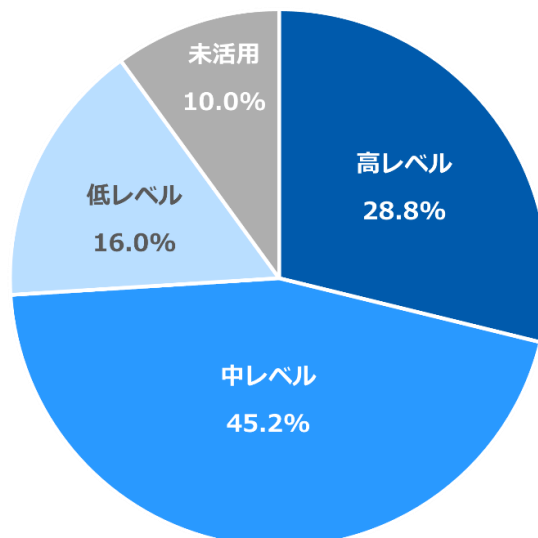
業務活用者の生成AI利用頻度



業務削減時間の推移（月間）



AI活用レベル



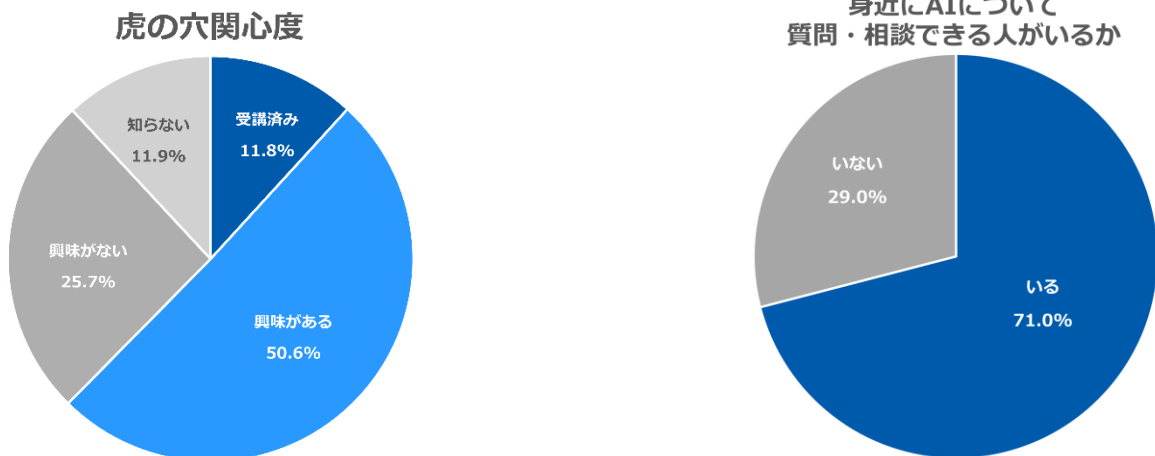
②社内リスキリングスクール「虎の穴」に強い興味

- ・ 2024年2月より開始した、GMOインターネットグループオリジナルのリスキリング施策である、短期AI人材育成プログラム「虎の穴」について、「受講済み」が11.8%、「興味がある」が50.6%という結果となりました。
- ・ このことから、既にAIを業務に活用しているパートナーも、現状に甘んじることなく、さらにAI活用スキルの向上を目指していることが推測されます。
- ・ 「身近にAIについて質問、相談できる人がいるか」という質問に対しては、「いる」と回答した人が71.0%で、周囲の仲間と相談しあってAI活用を推進できる環境が整ってきていることもわかりました。

■虎の穴について

2024年2月より開始した、GMOインターネットグループオリジナルのリスキリング施策。「虎の穴」第1弾（2024年2月～2025年1月）ではグループ内の非エンジニアを中心に716人の、AI・RPA人材が生まれ、個々の業務の自動化やAIによる業務効率化だけでなく、社内のエンジニアと非エンジニアの橋渡し役として活躍する効果も生み出しました。

また、「虎の穴」は2025年4月より、誰でもいつでも受けられるオンデマンド形式として、コンテンツの種類を拡大したリニューアルバージョンを提供予定です。これにより、さらにパートナーのAI活用スキルの底上げを推進し、AI活用で悩んだ際の相談役となれるようなパートナーを増やしていく見込みです。新しく約1,000人のパートナーの受講を見込み、第1弾と併せて合計約1,700人のAI活用スキルを底上げします。



③「Deep Research」の活用を模索

- ・ 大きな話題を呼んでいる「Deep Research」について、正確性の観点から、最終的には人間による一次情報のチェックは必要という声はありつつも、「調査効率化」「情報収集範囲の拡大」「アイデア創出」といった観点から有益であるという意見が多数を占めました。また、月200ドルと高額な、ChatGPT Proプランに関しても価格だけの価値があるという感想や、調査に当てた時間で別の業務に集中できる等の意見が寄せられました。

■パートナーのコメント

<「Deep Research」はあなたの仕事にどのように役立つと思いますか？>

高速かつ高精度な調査支援：「優秀な調査担当を1人雇っているようなもの。金額だけの価値はある」

多角的視点での情報取得：「業界のトレンドや、競合他社がどのような展開をしているか、ビジネス的・エンジニア的にどのような取り組みを行っているかを調査する際にとっても役に立っています。それ以外にも専門外の領域における1次調査を行う場合も、非常に優れた効果を発揮すると思います。」

思考プロセスの可視化：「Deep Research/Searchの真価は「思考の経路」を見れるところにあると感じます。思考の経路=思考フレームワークをなぞることでより人間も進化できます。」

④人間がやった方が良く、AIを使いこなしている人の条件とは？

- ・ 「人間が主体となって、AIをアシスタントとしていかに活用出来るかが重要である」といった回答や、「最終結果は人間がしっかりとチェックするべき」といった回答が目立ちました。
- ・ 「目的に沿った適切なAIの選択ができる人」や「日々アップデートを追いかけ、ツールを使い分ける柔軟性がある人」といった声も多く見られました。

■パートナーのコメント

<AIを使っている「まだ自分（人間）がやったほうが良い」と感じたことがあれば教えてください。>

最終判断：「最後の判断業務は、自分が理解不足の領域の最終判断をAIに任せるのは危険だと感じます。」

正当性の判断：「正当率は高いですが、回答が間違っていることはあるので、正当性は自分で判断する必要があると思います。ただ、アプリケーション作成計画、コード生成の分野などでは進歩が見られ、簡単なコード生成は最近自分で作成する機会は減りました。」

テキスト化されていない要因も含めての判断：「物事の判断に密接に絡む部分は人間がおこなうべきだと思います。テキスト化されていない要因もあるため、生成AIのアウトプット以外の点も十分に考慮する必要があると感じています。」

■パートナーのコメント

<あなたにとって、生成AIを使いこなしているなどと思う人はどんな人ですか？>

成果物の品質向上：「自身の片腕のような使い方をしている人。AIに任せべき事柄を熟知していて、自身の成果物のレビューをさせたり、また代わりにAIに作成させて自身がレビュアーになるなど、従来作業品質を高めるために一人で解決できなかったことを、一人称で解決するように活用をしている人だと思います。」

複数AIの使い分けが可能：「AIツールを組み合わせ業務効率化や生産性向上につなげられて、さらに第三者にもAIツールのノウハウなど教えることができる人がAIを使いこなしている人だと感じます。」

成果物を適切に評価：「AIに任せると、人が最終的に判断するポイントを確実に抑えて活用する人だと思います。」

自然にAIを使う習慣：「何か新しいことを考えるタイミングで、思考するより前にリクエストをしている人。自然にAIを使っている人がAIを使いこなしている人と感じます。昔は、誰かに質問するより先にGoogleで検索することがマナーのような感じだったことと同じ感覚です。」

【グループ内 AI 推進プロジェクト「AI しあおうぜ！」リーダー 李 奨培 (り じゃんべ) コメント】

遂に GMO インターネットグループ全体の生成 AI 業務活用率は 90.0% を超えました。これからは、既に AI を使いこなしている人が、更に高度な AI 人財となるための体制作りを加速させます。具体的には社内で行っていた GMO インターネットグループオリジナルのリスキリング施策「虎の穴」をオンデマンド化し、非エンジニアでも AI・RPA を使いこなせる人財に社内のコミュニケーションターとして活躍していただきます。



僕の生まれ故郷には「始めることが半分だ」という諺があります。この諺は始める事の重要性を現したのですが、僕は 9 割から先の「質」に徹底的にこだわりたい。活用が 9 割だとして、その中身はどうか、そこに響くのが各担当部署の「共通言語」や「共通知識」の確立です。2025 年はコミュニケーションという、人間社会の本質に迫っていこうと思っております。

【GMO インターネットグループについて】

GMO インターネットグループは、ドメインからセキュリティ、決済までビジネスの基盤となるサービスをご提供するインターネットインフラ事業を軸に、インターネット広告・メディア事業、インターネット金融事業、暗号資産事業を展開する総合インターネットグループです。

また、「AI で未来を創る No. 1 企業グループへ」を掲げ、グループ全パートナーを挙げて生成 AI を活用することで、① 時間とコストの節約、② 既存サービスの質向上、③ AI 産業への新サービス提供を進めています。^(※4) なお、生成 AI を活用し、2024 年は年間で推定約 150 万時間の業務削減を実現しています。

お客様に喜ばれるサービスを迅速かつ低価格で提供するために、サービスは機器の選定から設置、構築、開発、運用までを内製化することを基本方針としています。そのため、グループ 110 社以上に在籍する約 7,500 名のパートナーのうち、IT のモノづくりを担う開発者（エンジニア・クリエイター）が 50% を超えています。（2024 年 12 月末時点）

(※4) 参考 URL 「AI で未来を創る No.1 企業グループ」実現への取り組み <https://www.gmo.jp/ai-history/>

GMO インターネットグループで実施する AI 活用促進の例については別紙に記載しております。

以上

【報道関係お問い合わせ先】

●GMO インターネットグループ株式会社

グループ広報部 PR チーム 倉田

TEL : 03-5456-2695

問い合わせフォーム : <https://www.gmo.jp/contact/press-inquiries/>

【GMO インターネットグループ株式会社】(URL : <https://www.gmo.jp/>)

会社名	GMO インターネットグループ株式会社 (東証プライム市場 証券コード : 9449)
所在地	東京都渋谷区桜丘町 26 番 1 号 セルリアンタワー
代表者	代表取締役グループ代表 熊谷 正寿
事業内容	■インターネットインフラ事業 ■インターネット広告・メディア事業 ■インターネット金融事業 ■暗号資産事業
資本金	50 億円

Copyright (C) 2025 GMO Internet Group, Inc. All Rights Reserved.

【別紙：GMO インターネットグループで実施する AI 活用促進の例】

■①時間とコストの節約

1. 2023年4月より賞金総額1,000万円の社内公募コンテスト「AI（愛）しあおうぜ！ChatGPT 業務活用コンテスト」を実施。AIに関する取り組みや新サービスへつながる作品が集まり、多くがサービス提供・実装しました。
2. AIに関する最新動向や最新ツールの理解を深める、専門家による「GMO AI セミナー」を定期開催しています。
3. AIに関するグループ内のポータルサイト「GMO Genius」を立ち上げ、プロンプトやGPTsの共有、その他情報共有等を行い、グループ内の「AI ナレッジ」の共有を図っています。
4. 非エンジニアを対象としたリスキリング施策として、社内の有識者が講師となり、3か月間の短期 AI 人材育成プログラム「虎の穴」を実施しています。
5. 全パートナー受験必須の AI テスト「GMO AI パスポート」を実施しています。また、中途採用における選考で AI に関する課題を実施しています。
6. Slack 上で使える「ChatGPT」等のアプリを提供し、情報が学習されないクローズドな環境で、有料ツールを利用できる環境を提供しています。
7. 2024年12月に、「AI 熊谷正寿」実現へのステップとして社内向け独自 AI ツールを提供開始しました。本ツールは「GMO イズム」を学習した“バーチャル知的ナビゲーター”です。
(<https://www.gmo.jp/news/article/9305/>)

■②既存サービスの質向上

AI を活用し既存サービスへの機能追加による質の向上を測っています。生成 AI による文章や画像の生成等により、ドメイン、ホスティング、EC、広告、メディア、セキュリティ等幅広い領域でお客様にこれまで以上に利便性の高いサービスをご提供しています。詳しくはこちら (<https://www.gmo.jp/ai-history/>)

■③AI 産業への新サービス提供

AI 産業を盛り上げるべく AI スタートアップの支援を進めています。

1. 2023年5月に、ハンズオン型 CVC「GMO Web3 株式会社」を、「GMO AI&Web3 株式会社」へと社名変更し AI スタートアップ支援を拡大しています。すでに、有望な AI スタートアップへの支援を実施しています。
2. NVIDIA 社の GPU「NVIDIA H100 Tensor コア GPU」「NVIDIA L4 Tensor コア GPU」を搭載した AI 開発者向けの GPU ホスティングサービスを開始しました。(<https://www.gmo.jp/news/article/8677/>)
(https://ir.gmo.jp/pdf/irlibrary/gmo_disclose_info20240213_06.pdf)
3. AI 専門家とともに「GMO 教えて AI 株式会社」を設立し、生成 AI プロンプトポータルサイト「教えて AI」を開始しました。(<https://oshiete.ai/>)
4. 2024年6月に、GMO AI&ロボティクス商事株式会社（通称 GMO AIR）を設立し、AI とロボット・ドローンの導入・活用支援を軸とした新たな事業を開始しました。(<https://www.gmo.jp/news/article/9010/>)
5. 2024年11月に、「NVIDIA H200 Tensor コア GPU」と「NVIDIA Spectrum-X」イーサネット ネットワーキング プラットフォームを採用した「GMO GPU クラウド」の提供を開始しました。
(<https://www.gmo.jp/news/article/9271/>)